

氏名	山 本 尚 子
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	博 甲 第 959 号
学 位 授 与 の 日 付	平成 3 年 3 月 31 日
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科社会医学系衛生学専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)
学 位 論 文 題 目	医療機関の機能分化の一方策としての紹介外来制度の評価
論 文 審 査 委 員	教授 武田和久 教授 木村郁郎 教授 辻 孝夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

二次医療機関における紹介外来制度の導入が、医療機関の機能分化に与える影響を評価する目的で、N病院における紹介患者と非紹介患者について、内科外来受診カルテを用いて比較検討した。次に、紹介外来制度に対する医療サービスを受ける側としての住民の評価を明らかにすることを目的として留置き調査を行った。

その結果、紹介患者と非紹介患者とでは、性と年齢の分布、疾病構成及び入院率が異なっていることが認められた。また、性と年齢構成をマッチングして紹介患者と非紹介患者とを比較したところ、紹介外来制度の導入は二次医療機関が扱う患者の質に影響を与えており、医療機関の機能分化に有効であることが認められた。さらに、地域の病院が紹介外来制度を導入することで、医療機関並の紹介患者率が得られること、及び住民がかかりつけ医を持つことによって紹介外来制度に対する重要性の認識にプラスの影響を与えられていることが明らかとなった。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、二次医療機関における紹介外来制度の導入が、医療機関の機能分化にどのような影響を与えるかを、N病院における紹介患者と非紹介患者について、内科外来受診カルテを用いて比較検討したものである。実際には、紹介患者の割合は13%前後にとどまり、予想に反し、むしろ医療機関の機能分化の程度が紹介患者の割合を規定している結果になっている。このような事実から紹介外来制度をさらに厳しくすることによって、医療機関の機能分化を促進し得ることが考えられ、今後わが国の効率的な医療機関のシステム化を計る上で重要な新知見と考えられ、公衆衛生学的見地からも価値の高い業績である。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。